

氏名	湯本哲也
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 5189 号
学位授与の日付	平成 27 年 6 月 30 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科生体制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Prevalence, Risk Factors, and Short-term Consequences of Traumatic Brain Injury-Associated Hyponatremia (頭部外傷に合併した低ナトリウム血症の頻度, 危険因子, および短期予後についての検討)
論文審査委員	教授 伊達 勲 教授 大塚 文男 准教授 中村 一文

### 学位論文内容の要旨

頭部外傷にはしばしば低ナトリウム血症を合併し、予後不良となりえる。今回我々は頭部外傷に合併する低ナトリウム血症の頻度、危険因子や短期予後について検討した。2011年10月から2014年9月までの3年間に岡山大学病院の救急集中治療室に入室したCTにて頭蓋内出血を認めた頭部外傷患者を対象とし、後方視的に検討した。82名の頭部外傷患者のうち、入室後2週間以内に135mEq/Lおよび130mEq/L未満の低ナトリウム血症を呈した割合はそれぞれ51%(n=42)、20%(n=16)であった。低ナトリウム血症は入室後中央値で7日目に起こり、3日間持続した。多変量解析では頭蓋骨骨折の合併と入室3日目までの総輸液量が低ナトリウム血症の危険因子であった。低ナトリウム血症群は人工呼吸管理期間および集中治療室滞在期間が長く、神経学的予後も不良となる傾向があったが、統計学的有意差は認めなかった。今後は頭部外傷に合併する低ナトリウム血症の適切な管理や予防について更に検討する必要がある。

### 論文審査結果の要旨

頭部外傷後に低ナトリウム血症が合併し、予後不良となる症例がある。しかしながら、本症に関わる因子については十分に解明されていない。本研究では、発生頻度、危険因子、および短期予後について、研究者の施設での106症例の分析を行った。その結果、低ナトリウム血症の頻度は51%、重症低ナトリウム血症の頻度は20%であること、危険因子は頭蓋骨骨折と入室後3日目までの総輸血量であることが明らかとなった。低ナトリウム血症の発生は中央値で入室後7日目で3日間の持続であった。低ナトリウム血症になると、人工呼吸管理期間・集中治療室滞在期間が長くなり、短期予後も不良となる傾向があるため、これらの因子に関する情報を勘案し治療に当たるべきと思われる。本研究は頭部外傷と低ナトリウム血症に関する因子を分析することで、今後の本症の治療成績の向上に寄与する重要な知見を得た点で価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。